

## ちいさな証

一人きりの兄を失くして、  
松林幸二郎

スイス日本語福音キリスト教会会員



3歳上のたった一人きりの私の兄が3月1日早朝に他界いたしました。ひどい苦痛を伴う人工透析を行う前の、しかし安らかに眠るような表情だったのですが、長い糖尿病との闘病生活の末、体がぼろぼろになって迎えた死でした。一人きりの兄を失くすのは言い様もなく寂しい事です。母より先に逝ってしまった兄の無念

と悔しさを思うたびに涙が出てきますが、同時に、兄は筆舌に尽くしがたい苦しみと堪え難い痛みから解放されました。

日が暮れるまで外で遊んでいた少年時代の兄は、祖父のそばで一日中でも絵を描いて一人で遊んでいた私とは、性格もまったく異なり、中学を出て寿司職人となった兄と、全寮制高校生活から京都での勤労大学生を終えるやいなや海外放浪の旅に出てしまった私とは共有する思い出もほとんどありませんでした。50数カ国を廻る放浪の旅も3年が過ぎたころ、故郷からは寿司屋が行き詰まって多額の借金を抱えた兄夫婦と母の苦境が伝えられてきました。

帰国すれば何が待っているのかも知らず、片道切符でソ連を経由し、ヨーロッパ、北南米に渡った私は、3年半ぶりに故郷の土を踏みました。兄は、寿司職人として一流ではあるけれど、商売人としては不適格で、優しい性格から友人らの保証人となっていたため、他人の借金さえ背負いきれないほど負っていました。私は、銀行からやくざまがいの高利貸しまで頭を下げて廻りながら、借金の返済をしていくといった、夢にも考えた事なかった苦しい日々でしたが、不思議に兄を恨むことがなかったのは、芽生え始めていた幼い信仰と、やはり、イエス様の支えがあったからだと思っています。

その3年に渡る借金生活の苦闘がほぼ一段落すると、兄家族は東京に新生活を求め引っ越しをし、私は恋人だったスイス人女性と結婚するために渡欧いたしました。

それから、27年もの歳月が流れ、なんと私の住むスイスで兄と再会し、一年足らずという短い期間でしたが、同じスイスという国で生活し、生まれて初めて心を通わすことになるのは夢想だにできなかったことでした。



我が家で寿司を握る兄

ベルン市で日本料理店を営む田中伸二兄がグリンデルワルドに出す支店を兄夫婦に任せたいという申し出を、あの臆病ですらある兄が受諾したことも主の導きであったと信じています。兄は田中兄の期待には添えなかったという忸怩(じくじ)した思いはあるけれ

ど、田中兄のオファーがなかったのなら、私たちの生涯に、兄弟としての心通う交流もなかったであろう事を思うと、田中兄と、その背後で働いて機会をお与え下さった主にはどれほど感謝してもしきれないと大きな恩を感じています。



ごく内輪だけの告別式には私は帰国しませんでした。母から、兄の49日には帰ってきて欲しいと乞われました。仏教の法事にできるのは、キリスト者となった私には、当然、大きな抵抗がありますが、田辺先生から「お母さんを慰めるために帰っておやりなさい、何事も愛を優先しなさい、法事にどう振る舞うかは主が知恵をくださるから」といわれ帰国を決めました。4月は休暇を取る職員が多く、まず無理だろうとは思いつつ尋ねたところ、リーダーは私の代わりに妻が勤務するなどの工面をして一週間の休みを用意してくれました。ここでも奇跡をみさせて頂きました。

惜しむらくは、スイスに住む私は東京の兄に、死がすべての終わりではなく、永遠の命に繋がるという希望に満ちた福音をことばで十分伝えられなかったことです。同じ糖尿病を患っておられ今は亡き芳賀正先生も、人里離れた病院に入院していた兄を一日かけてお見舞い下さり、きっとイエス様のお話もしてくださったと信じていますが、イエス様の救いにまで導けなかったのは私の愛が足りなかったからと後悔しています。そんな折、ある姉妹からいただいたメールは、私にどれほど大きな慰めを与え、文章のなかに主の深い愛を感じたことでしょう。

貴兄のお心にあることをかいま見せてくださり、本当にありがとうございました。長年、非常な苦しみと痛みを耐えてこられたお兄様に、天のお父様は「もう十分に苦しんだよ」とご自身のふところにお迎えになられたのではないのでしょうか？

貴兄のお祈りと福音に従った生活は、福音を口で伝える以上にお兄様に語ってくれていたと思います。神様の愛と憐れみは、私たちの想像をはるかにこえています。罪だらけの醜い私たち人間には、神様の慈愛と憐れみの深さも大きさも到底考えられないのでしょうか。神様は人間とは全く異なっておられるという事実も。

愛するお兄様は、今この神様からどれほどの愛を受け、地上での堪え難い痛みも苦しきもすっかり忘れて、新しい天上のからで天国を自由に動き回っておられると想像します。神様ご自身がお兄様の顔から涙をぬぐってくださるのです。そして恐らく、お兄様は以前よりもっと貴兄に近くなられたとも思います。どうか慰めの主が、貴兄の心をご自身の慰めで満たし、その慰めで貴兄が、他の人を慰めることができますように。

SS